

A病棟に入院した高齢慢性心不全患者の自己管理に対する理解度の評価

浅野 貴之[†] 本田 奈々絵 牧野 侑歩 豊岡 康弘
篠原 理佐 黒瀬 水紀 船田 淳一*

IRYO Vol. 75 No. 1 (76-80) 2021

要旨

A病棟の心疾患患者における自己管理指導の現状は、患者の理解度、これまでの生活や病気のプロセスを理解した個別性のある指導が実施できておらず、画一的な指導で終わっていることが多い。また、A病棟は高齢者が多く入院している背景があり、自己管理指導を行った患者に対して、妥当性のある評価方法を用いて理解状況の評価を行った経験もなく、客観的視点から患者の理解度を評価できていない。今回、A病棟に入院した心疾患患者の中で、高齢慢性心不全患者の自己管理に対する理解度を「高齢慢性心不全患者のセルフケア評価尺度」を用いて評価した。65歳以上の高齢慢性心不全患者4名を対象とした。1. 必要な知識と実践, 2. 生活の中で獲得される管理の習慣と継続, 3. 身体徴候の変化に対する認識と対応, 4. 自ら獲得する支援体制の4つのカテゴリで単純集計を行った。結果、各カテゴリ間に平均点の差は認められなかった。「適切な運動量」について対象者の理解度が低く、日常生活に即した運動形態・負荷量や外食時の選び方について患者に確認し、具体的な方法についての指導が行えていない現状が明らかとなった。「体重のセルフモニタリング」について、退院後の自己管理行動における知識と実践が結び付けられていない現状が明らかとなった。今回の研究で明らかになった問題点から、今後はセルフモニタリングが退院後においても実践可能な指導方法について検討していく必要がある。また、早期に患者および家族から自己管理状況を聴取し、日常生活に即した自己管理指導が行えるように、家族を含めた指導介入を行っていくことが重要である。

キーワード 自己管理行動, 高齢者, 慢性心不全

A病棟：独立行政法人国立病院機構 愛媛医療センター 2階病棟

はじめに

厚生労働省平成28年人口動態の概要¹⁾によると

「日本における死因別死亡総数の順位では、心疾患による死亡は悪性新生物に次ぎ2番目に多い。その中でも、心不全による死亡は心疾患の内訳の中で

国立病院機構愛媛医療センター 看護部 *循環器内科 †看護師
著者連絡先：浅野貴之 国立病院機構愛媛医療センター 看護部 〒791-0281 愛媛県東温市横河原366
e-mail : asano.takayuki.hb@mail.hosp.go.jp
(2019年10月21日受付, 2020年9月11日受理)

The Assessment of Self-management Comprehension in Hospitalized Elderly Patients with Chronic Heart Failure
Takayuki Asano, Nanae Honda, Yuho Makino, Yasuhiro Toyooka, Risa Shinohara, Mizuki Kurose and *Junichi Funada,
Department of Nursing and *Department of Cardiology, NHO Ehime Medical Center
(Received Oct. 21, 2019, Accepted Sep. 11, 2020)

Key Words : self-management behavior, elderly person, chronic heart failure